

生態系等への影響について文献等で指摘があり、さらに知見及び情報の充実に努める必要のある外来生物のリスト
(要注意外来生物リスト)(暫定版)

1. リスト作成の目的

生態系等への影響が文献等で指摘されている外来生物について、今回の特定外来生物の選定作業では、被害に係る科学的知見及び情報が不十分であるとの理由から、選定されなかった外来生物がある。

これらの外来生物について、生態系等に係る被害の予防に役立てることを目的にリスト化し、それらの生物の利用に関し留意すべき事項を掲げて公表することにより、関係者に影響の内容を周知し、管理されている施設や場所以外に逸出又は遺棄しないようにするなど注意を呼びかけるとともに、さらなる知見及び情報の集積を図ることとする。

(参考)「中央環境審議会外来生物対策小委員会岩槻委員長談話」抜粋

「外来生物問題に予防的に対処する観点から、特定外来生物には指定されていないものの生態系等に被害を及ぼす懸念があるものについて、要注意生物リストといったものを作成する必要がある。そうしたリストが公表されることにより、関係者が日頃より外来生物の使用に関心を持ち、さらなる知見が集積され、被害の予防に役立つようになることが期待」

2. リストの内容

生態系等に係る被害を予防するため、生態系等への影響が文献等で指摘があり、その取扱いに際して注意を呼びかけるとともにさらなる知見及び情報の集積を図る必要がある外来生物をリストに掲載する。

被害に係る知見や情報の蓄積がある程度見られる外来生物については、別途個票を整理し、リストに添付するものとする。

なお、各分類群グループ会合の意見を踏まえて、作成した案は別添のとおりであり、挙げられた種類数は、哺乳類 15 種、鳥類 2 種類、爬虫類 12 種類、両生類 9 種、魚類 27 種、昆虫類 3 種類、無脊椎動物 20 種類、植物 60 種類で計 148 種類であった(種類数としているのは、「外国産メジロ」「アメリカスッポン属全種」「台湾ンシジミ群」「タンポポ種群」など、まとまりでの選定があるため)。

3. リストの公表

学識経験者の意見を踏まえて作成したリストについて、環境省において公表する。

公表に際しては、本リストの目的、取扱いを明記し、掲載種が外来生物法の規制の対象でないことも付記し、外来生物の利用者に混乱を与えないよう留意するものとする。

生態系等への影響について文献等で指摘があり、さらに知見及び情報の充実に努める必要のある外来生物のリスト
(要注意外来生物リスト) 哺乳類・鳥類 (案)

* 日本生態学会リスト100 IUCNリスト100

| 和名 | 学名 | * | 文献等で指摘されている影響の内容 | 主な参考文献 | 備考 |
|--------------------------------|---|---|------------------|-----------------------|---|
| ナミハリネズミ | <i>Erinaceus europaeus</i> | | 生態系(競合・駆逐・捕食) | 5,6 | 海外では、鳥類の卵・雛、又は昆虫類等を捕食することでの影響が懸念されている。飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないように、関係者に普及啓発が重要。 |
| リスサル | <i>Saimiri sciureus</i> | | 生態系(競合・駆逐) | 6 | 野外での目撃事例が多い。飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないように、関係者に普及啓発が重要 |
| キタリス | <i>Sciurus vulgaris</i> | | 生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱) | 6,8 | 亜種イソリスとの交雑が懸念される。ペット飼養個体などの遺棄、逸出を防ぐように、関係者に普及啓発が重要 |
| チョウセンマリス | <i>Tamias sibiricus barberi</i> | | 生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱) | 8,11 | 亜種イソマリスとの交雑が懸念される。ペット飼養個体などの遺棄、逸出を防ぐように、関係者に普及啓発が重要 |
| タイクモモンガ | <i>Pteromys volans</i> | | 生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱) | 8 | 亜種イソモンガとの交雑が懸念される。ペット飼養個体などの遺棄、逸出を防ぐように、関係者に普及啓発が重要 |
| フェレット | <i>Mustela furo</i> | | 生態系(競合・駆逐、捕食) | 1,6,9 | 海外では、野生した個体による鳥類の卵・雛などの捕食が報告されており、愛玩飼養を禁止している国もある。飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないように、関係者に普及啓発が重要。 |
| アメリカミンク | <i>Mustela vison</i> | | 生態系(競合・駆逐、捕食) | 2,3,4,6,10 | 海外では、野生した個体による鳥類の卵・雛などの捕食が報告されている。飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないように、関係者に普及啓発が重要。 |
| シカ属(8種) 全種* | <i>Cervus</i> spp <i>C.albirostris</i> , <i>C.canadensis</i> など | | 生態系(遺伝的攪乱) | 4,7,8 | ニホンジカとの交雑が海外で報告されている。養鹿施設などからの逸出などを防ぐための関係者への普及啓発が重要。 |
| インドクジャ | <i>Pavo cristatus</i> | | 生態系(競合・駆逐、遺伝的攪乱) | | 資料8を参照 |
| 外国産クワ (ハイラルクワ、 ヒメクワなど)** | <i>Zosterops palpebrosus</i> , <i>Z. japonica simplex</i> など | | 生態系(遺伝的攪乱、競合・駆逐) | 12,13,14, 15,16,17 | 野生化すれば、近縁種および亜種間で交雑が起り、遺伝的攪乱を招く可能性が高く、優占種になることにより、似た資源を利用する在来の競争種への影響が懸念される。飼養施設以外への逸出や遺棄をすることがないように、関係者に普及啓発が重要。 |

*在来ニホンジカ(*Cervus nippon nippon*、*C.n.keramae*、*C.n.pulchellus*、*C.n.yakushimae*、*C.n.yezoensis*)を除く

** *Z. japonicus*の亜種、ヒメクワ(*Z. japonicus simplex*)、ハイラルクワ(*Z. j. hainanus*)キチクワ(*Z. j. batansis*)、フイロクワ(*Z. j. meyeri*)を含む。
在来クワ(*Z. j. japonicus*、*Z. j. steunegeri*、*Z. j. alani*、*Z. j. insularis*、*Z. j. loochooensis*、*Z. j. daitoensis*)は除く

主な参考文献

- 1 Byrom, A. E. (2002) Dispersal and survival of juvenile feral ferrets *Mustela furo* in New Zealand, *J. Applied Ecology*, 39:67-78.
- 2 Ferreras, P. and Macdonald, D. W. (1999) The impact of American mink *Mustela vison* on water birds in the upper Thames, *J. Applied Ecology*, 36(5):701-708.
- 3 北海道生活環境部自然保護課 (1985) 野生動物分布等実態調査報告書-野生化ミンク-, 北海道生活環境部自然課
- 4 池田透 (1998) 移入哺乳類の現状と対策, 遺伝, 52:37-41.
- 5 Landcare Research (2003) A prickly whodunit: Predation by hedgehogs on native fauna, *Kararehe Kino Vertebrate Pest Research*, Issue 2:1-3.
- 6 Long, J.L. (2003) *Introduced Mammals of the world*. CABI Publishing, 589p.
- 7
Lowe, V.P.W. and Gardiner A.S. (1975) Hybridization between Red deer (*Cervus elaphus*) and Sika deer (*Cervus nippon*) with particular reference to stocks in N.W. England. *J. Zool.* 177:553-566.
- 8 日本生態学会(編) (2002) 外来種ハンドブック. 地人書館, 390pp.
- 9 Norbury, G.L.; Norbury, D.C.; Heyward, R.P. (1998) Behavioral responses of two predator species to sudden declines in primary prey. *J. Wild Mgt* 62(1): 45-58.
- 10
Norodstorm, M., Hogmander, J., Laine, J., Nummelin, J., Laanetu, N., and Korpimäki, E. (2003) Effects of feral mink removal on seabirds, waders and passerines on small islands in the Baltic Sea, *Biol. Conservation*, 109:259-368.
- 11 自然環境研究センター (1998) 野生化哺乳類実態調査報告書, 161p.
- 12 Eguchi, K. and Amano, H.E. (2004) Invasive birds in Japan, *Global Environmental Research*, 8:23-28.
- 13 Eguchi, K. and Amano, H. E. (2004) Spread of exotic birds in Japan, *Ornithological Science*, 3:3-12
- 14 Long, J. L. (1981) *Introduced Birds of the World*, Reed, Wellington, 528p.
- 15 Mountainspring, S and Scott, JM (1985) Interspecific competition among Hawaiian forest birds. *Ecol. Monogr.* 55: 219-239.
- 16 Reynolds, M.H., R.J.Camp, Nielson and J.D.Jacobi. (2003). Evidencence of change in a low-elevation forest bird community of Hawai'i since 1979. *Bird Conservation International* 13: 175-187.
- 17
永田尚志. (2005/準備中). 侵入種が種多様性におよぼす影響機構の解明に関する研究, 環境省地球環境研究総合推進費終了研究報告書侵入生物による生物多様性影響機構に関する研究 平成12年度～平成15年度 (2), 24pp.

修正点:理由

- 1 外国産ミンクを追加:石田委員意見。影響が明らかである。文献も追加
- 2 インドクジャク個表に文献を追加:石田委員意見。